

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3590300103		
法人名	社会福祉法人 ひとつの会		
事業所名	グループホーム徳地あいおい苑		
所在地	山口市徳地堀1785-1		
自己評価作成日	平成27年7月25日	評価結果市町受理日	平成28年1月13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do">http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成27年8月31日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「共に生きる」を理念とし、入居者と職員・家族・地域の皆さまと、大いに関わり・日々共に笑い・泣き、共に分かち合えることを目指し実践している。地域の方々とも身近なお付き合いができるようになり、ご家族や昔からの馴染みある友人なども気軽に立ち寄れる雰囲気作りに努めている。  
四季に合わせた行事や個々の能力・状態に応じた活動、集団で楽しめるレクリエーション活動など、日常生活の中で楽しい・嬉しいと思える場面が増やせるよう職員全員で取り組み実践している。日々の会話や家事手伝いなど一緒に過ごす中で、援助方法の見直しや健康への気配りを含め、生き甲斐を持った笑顔に会えるよう心がけている。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時に本人や家族から聞き取りをされたアセスメントを活用されたり、日常の関わりの中での利用者の言葉や行動、様子などを介護記録に記録され、計画作成担当者が個別経過記録を作成されて、利用者の思いや意向の把握に努めておられ、一人ひとりの介護計画に結びつけられて、利用者がその人らしい暮らしができるように支援されています。一人ひとりに合わせた楽しみごとや活躍できる場面をたくさんつくっておられ、ちぎり絵をされる人、絵を描かれる人、折り紙をされる人、洗濯物を干される人、テレビを視ておられる人、椅子に座って他の利用者の様子を眺めている人など、それぞれに得意なこと、好きなこと、できることを思い思いに、活き活きとしておられる様子が伺えました。散歩や買い物、ドライブなどの外出支援も、個人の希望に合わせてできるよう努めておられます。家族との関係づくりに努めておられる他、職員同士のチームワークもとれて、利用者職員との関係が和やかで利用者の思いに沿った支援をしておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、活き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念として「共に生きる」を掲げ、日々の生活を入居者・職員間はもちろんのこと、別に住むご家族や地域の方々とも、喜怒哀楽を共に分かち合えることができる環境作りに努めている。	事業所独自の理念と基本方針を事業所内に掲示している。職員会議や日常のケアの中の場面に於いて、理念や基本方針を理解して、全職員で共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の高齢者を招待した交流会や、日常的な散歩・買い物、散髪など地域の一人としてお付き合いできる環境作りをしている。	自治会に加入している。自治会の総会に管理者が出席し、事業所の現状や対応について話し、理解を得る取り組みをしている他、災害時(火災時)の避難への地域の協力を得るための呼びかけをしている。自治会の清掃作業に職員が参加している。年1回事業所で開催している地域交流会に近隣の高齢者を招いて、体操や作品づくり、食事などを一緒にして交流している。ボランティア(オカリナやエレクoon演奏、手芸)の来訪がある他、民生委員が年に1回除草作業をしている。事業所主催の納涼祭に法人他事業所の利用者の参加があり、バーベキューをして交流している。近隣の散歩や近くの店での買い物、理美容室の利用などの時に出会った人と挨拶を交わしたり、会話をしている他、近所の人から野菜や花の差入れがあるなど交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設イベントへ招待や、ボランティアの受け入れなどを通して、苑の取り組みや認知症への理解を深めていただけるよう努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員ミーティングで評価の意義を説明し、ケア方法や具体的な取り組みなど協議すると共に、今後の在り方や改善に向け努めている。	職員ミーティングで評価の意義や項目について説明し、話し合っており、管理者がまとめている。職員一人ひとりが項目を理解して全職員が自己評価に取り組むまでには至っていない。利用者の支援にどう取り組むか、外出や入浴時間など個々への対応への課題がみつき、検討している。外部評価結果については、目標達成計画を立て、緊急時の対応の研修と訓練の実施など改善に向けて取り組んでいる。	・全職員での自己評価への取り組み

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催し、施設の現状や今後の取り組みを報告している。また、出席者よりいただいたご意見は、サービス向上に向け活用している。	会議を2ヶ月に1回開催し、事業所の現状や利用者の状況、外部評価結果、事故、ヒヤリハット報告など、事業所の取り組みについて報告し、食事の工夫についてや災害時の協力についてなど話し合っている。年1回会議を食事会と一緒に開催し、ソフト食、ミキサー食、普通食など利用者と同じ食事を試食してもらい、食事内容について話し合っている。意見を活かすように努めている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市担当課や地域包括支援センターとは、運営推進会議の他、窓口や電話で相談したり助言を求めるなどしている。	市担当者とは、電話や直接出向いて報告や相談をして助言を得ている他、情報交換をしているなど、協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議の時に情報交換をしている他、助言を得るなど連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中は玄関・居室の窓など開錠・開放し、開放的な環境で過ごしていただけるようにしている。外出を察知したときは、一緒に出かけるなどの工夫をしている。また、言葉のかけ方については、職員間で協議しスピーチロック防止に努めている。	職員は、法人研修や内部研修で身体拘束について学び、職員ミーティングで話し合い、言葉を考え、理解して身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関の施錠をしないで外出したい利用者には、職員と一緒に出かけている。スピーチロックに気づいたときは、管理者が指導している他、職員同士で注意しあっている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修参加により得た知識は、職員ミーティングで報告すると共に日常業務を再確認している。日常ケアを行いながらお互いが無意識のうちに虐待行為を行っていないか、職員間で確認し合ながら防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度および日常生活支援事業の利用者を受け入れている。ご家族等から相談があれば適切に利用できるよう説明し、利用開始に当たっては関係者と協議し調整している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ねた上で十分な説明を行い、理解・納得していただいている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受け付け担当者、第三者委員を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。ご家族へは「ご意見用紙」を配布や面会時に状況報告を行うと共に意見や要望を聞くようにしている。	相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め、契約時に家族に説明している。電話や面会時、行事参加時などに、管理者や職員が利用者の現状を家族に伝え、家族から意見や要望を聞いている。意見箱の設置や家族に「ご意見用紙」を配布して意見を記入してもらっている。運営に反映させるまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員ミーティングに於いて、意見交換を行いより良い運営につなげられるよう努めている。また、年2回行う個別面接などにおいても意見などあれば反映できるよう努力している。	管理者は、職員ミーティングで職員から意見や提案を聞く機会を設けている他、年2回、面談をし個別に意見を聞いている。日常の業務の中でも職員は管理者に意見や提案を伝えている。夜間、利用者居室に車のライトが当たり、利用者が度々目を覚ましてよく眠れない状況があるという意見があり、遮光カーテンを設置するなど、意見を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課シート・面談により意見・要望など把握し、各自が向上心を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。また、管理者は週一回の統括会議に於いて、現状報告と諸条件改善に向けた意見出し合い協議している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回開催の法人内部研修への参加や随時行われる外部研修への情報提供を行い、業務の一環として参加の機会を設けている。受講後は復命を行うと共に、研修内容を職員全員で共有できるようにしている。	外部研修は、管理者が研修内容や職員の経験に応じて情報を伝え、勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は、職員ミーティングで復命報告をし、全職員で共有している。毎月1回実施している法人研修に全職員が参加している。内部研修は計画を立て、職員ミーティングの中で毎月実施している。緊急時の対応についての研修や訓練を実施している。新人は法人で研修している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	業務として積極的に外部研修参加できる体制と作り、法人内外のグループホーム部会による研修や交流会を通し、意見交換や体験実習および受講後の復命を行うことで、質の向上を図っている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人・家族との面接、医師・MSW・介護支援専門員からの聞き取りを行うことで、入居者の生活歴、思いを確認し、サービス導入時に安心して暮らせる環境作りに努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談では、現状把握を行うと共にサービス開始までの不安が解消できるよう話を聞き、わかりやすく説明するよう心がけ、安心してサービスが利用できるよう努めている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前に面接を行い、どのような支援が必要か見極め、必要に応じて他のサービスについての情報提供・相談や利用について説明を行っている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様に意思確認を行いながら、ご自分で「できる」と言われたことは自立に向けた支援を行い、できないことの援助で共に暮らしている。職員・入居者共に一緒に生活する一人として、お互いが知恵と能力を出し合い、支え合って日々を過ごしている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のお便りによる近況報告、面会時にご家族との面接で、できる限り家族と職員とが情報を共有でき、それぞれの立場から同じ目線で支援ができるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族による面会拒否がない限りは、昔の同僚や近隣の方の面会を受け入れている。また、長年の関係が途切れないよう個別支援を含め交流支援をしている。施設での暮らしが広がりあるものとして感じられるよう心がけている。	家族や親戚の人、昔住んでいた近所の人、友人、知人などの来訪がある他、知人の三味線演奏の発表会に出かける支援をしている。家族と一緒に海外旅行をした利用者がある他、法事や葬儀、結婚式などへの出席、墓参り、寺参り、買い物、馴染みの美容院の利用、外泊、外出など家族の協力を得ながら馴染みの人や場との関係が途切れないように支援している。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の意志を尊重し、自由に過ごしていただけるようにしている。ひとり一人の状態を把握し関わりを持つことが難しい方については職員が介入し、入居者同士仲良く笑顔で過ごせるよう、座る場所や会話など配慮している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居が終わりではなく、いつでも相談できる関係作りに努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	自己判断可能な方については、本人の要望を聞き、困難な方については、日々の行動や言動、またケアへの反応など些細な気づきを基に本人の思いの把握に努め、担当者を中心にカンファレンス等で検討し希望に添えるよう努めている。	入居時のアセスメントの活用や、利用者との日々の関わりの中で言葉や行動、様子などを介護記録に記録し、個別経過記録を計画作成担当者が作成して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者の動きや様子などから思いを汲み取り、カンファレンスで話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・ご家族からの聞き取りや関係機関からの情報提供、入居後に於いてはそれぞれ機会ある毎に聞き取った話を記録にし、支援の参考にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動や行動などを把握に努めると共に個別経過記録に記載し、申し送りやカンファレンスを通し職員同士が情報の共有化を図っている。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を把握すると共に、カンファレンスを通して現在の状況や課題(原因や背景)を意見交換し、情報を共有すると共に同じ視点で支援できるよう、その場に即した支援計画を作成している。	月1回、カンファレンスを開催し、経過記録や本人、家族、訪問看護師、主治医などの意見を参考にして、計画作成担当者を中心にして話し合い、介護計画を作成している。月1回のカンファレンスでモニタリングを実施し、評価シートで3ヶ月毎に評価し、1年毎に計画の見直しをしている。利用者の状態に変化が生じた場合は、その都度、家族と話し合い、カンファレンスで検討をして見直しをし、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、経過記録、受診記録などから情報共有を図っている。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズの把握に努めると共に、医療機関(専門医)の受診や福祉用具の利用など広い視野を持ち、専門家による意見を聞きながら支援している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	他事業所との交流やボランティア受け入れ、学生の職場体験などを通じた交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族の意向を確認すると共に、体調不良時には迅速に受診支援を行っている。また、協力医療機関とは密接な関係を保っており、状態に応じ相談・受診できる体制づくりをしている。	協力医療機関の他、本人や家族の希望するかかりつけ医への受診や他科受診を家族の協力を得て支援している。協力医療機関から月1回の訪問診療がある他、訪問看護師による健康チェックが週1回行われている。緊急時や夜間は、協力医療機関と連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的な看護師の訪問を受け、体調の変化があれば直接担当看護師へ相談・報告できる体制を取っている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族・主治医・MSWと情報交換を行いながら状況把握に努めている。退院時に医療機関などから得た情報をもとに、職員間で情報共有し退院後安心して過ごせるような環境作りを行い受け入れている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族には入居時に施設の方針を説明している。受診状況をご家族に報告すると共に、重要な段階にきたときは、本人・家族・医師・訪問看護師・職員間で協議し支援している。	重度化した場合に、事業所でできる対応について、契約時に家族に説明している。実際に重度化した場合は、医師に相談し、家族や訪問看護師、職員、関係者で話し合い、「看取り介護に関する同意書」を家族からもらい、方針を共有して支援に取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	「事故」・「ヒヤリハット」については、原因把握に努め対応策を協議し再発防止に取り組んでいる。ご本人様の性格、生活の中での行動パターンを把握し、危険予知を行うと共に予防対策を図っている。緊急時の応急手当については、事業所内外で研修参加するなどしながら確認を行っている。	ヒヤリハット、事故報告書に、発生時の様子等を記録し、その場にいた職員で対応策を話し合い、申し送り共有し、職員ミーティングで事例検討会を行って介護計画に反映させるなど、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。法人研修(食中毒、感染症時の対応等)を受講している他、内部研修で打ち身、骨折、転倒、誤嚥などの応急手当や初期対応について、全職員が実践できるよう訓練を実施している。	・全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的訓練の継続



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中・夜間想定で避難消火訓練を実施している。また、運営推進会議や自治会総会などで苑内の状況報告および訓練への参加を呼びかけている。また、水災害等については、マニュアルの見直しや各機関へ協力体制を整備するなど努めている。	年2回、夜間を想定した通報訓練、避難訓練、消火訓練を利用者と一緒を実施している。近隣地域全体が危険区域にあるため、実際に水害の危険があった時には、法人の協力を得て、法人他施設に避難している。運営推進会議で火災時についての地域の協力を得る為の話し合いをしている他、自治会総会に出席して、事業所の取り組みを説明し、災害時対策や協力を働きかけている。事業所は自治会の防災会防災員に属し、緊急連絡網に加入しているなど、地域との協力体制を築くように努めている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々に合わせた意向・意志尊重・敬意を持った声かけを行うようにし、馴れ合いにならないよう努めている。不適切な対応があれば、職員同士が注意しあうようにしている。また、一つの支援方法としてご家族にも理解を得た上で呼びかけの工夫をしているケースもある。	職員は内部研修で学び、人格の尊重やプライバシーの確保について理解している。利用者を目上の人として尊敬の念を持って接し、誇りやプライバシーを損ねるような言葉づかいや対応をしていない。気になることがあれば、その都度、管理者が注意している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その方に合わせた声のかけ方を行っている。表出が難しい方には選択肢を与え、その中から選択できるように努めている。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設における大まかな生活リズムはあるが、起床から就寝まで個々の体調やその時々気分を尊重した時間を過ごして貰っている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己選択できる方については自主的に更衣されている。できない方については気候にあった服装ができるよう、職員と一緒に選んで着てもらっている。化粧品の補充や美容院の利用などご本人様の要望をご家族と相談しながら支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行事はもちろんのこと、日々の食事が楽しみなものになるメニューの工夫を行っている。盛りつけや配膳等を工夫すると共に、食べ易いよう食器等にも配慮している。また、好きなメニューを注文できる外食の機会を作ったり、下ごしらえやなど作る喜びが共有できるような取り組みをしている。また、後かたづけなどを手伝って貰うことで、一緒に生活する楽しさを感じていただいている。	調理担当の職員を確保し、三食とも事業所で食事づくりをしている。利用者に好き嫌いを聞いたり、普通に家庭で食べているような料理の献立で調理している。利用者は下ごしらえ（ふきの皮むき、くりの皮むきなど）、テーブル拭き、下膳、食器洗い、食器拭きなど、できることを職員と一緒にしている。利用者が食べやすいように食事の形態に工夫している。（ソフト食、ミキサー食、普通食など）。おやつづくり（ゼリー、クッキー、カップケーキ、お好み焼きなど）やソーメン流し、外食など食事が楽しめるように支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量、排泄状態を把握と体重の増減を確認し健康が維持できるよう、個別に調理方法や盛りつけ方など摂取し易いよう工夫している。また、必要に応じ医師と栄養状態を相談しながら指示を貰っている。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや見守りなどで一人ひとりに合わせた口腔ケアを行っている。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握し、適宜声かけや誘導を行っている。	排泄表を活用して、排泄パターンを把握し、一人ひとりに合わせた言葉かけや誘導でトイレで排泄できるように支援している。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的に排便できるよう、水分摂取量や運動、飲食物の工夫を行うと共に、リストール排便スケールを活用して排便状況把握し対応するよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	隔日に入浴できるようにしている。入浴拒否などがあれば、時間や入浴日を変更したり、職員が交代するなどの対応をしている。また、個別に入浴剤の使用や、温度調整、入浴の順序などその方に配慮して、入浴が楽しめる環境作りを行っている。	入浴は、隔日の13時から16時の間可能で、利用者の体調や希望に合わせてゆっくり入浴できるように支援している。入浴したくない利用者には、職員が交代したり、時間をずらしたり、言葉かけに工夫して対応している。利用者の状態に応じてシャワー浴、足浴、清拭など、個々に応じた支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人のペースで休息や睡眠ができるようにしている。夜間良眠できるよう、日中の過ごし方などにも配慮した支援を行っている。寝付きの悪い方については、話をする、飲み物を提供するなど気持ちが落ち着くまで寄り添う支援を行っている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬チェック簿により服薬管理を行い、薬事情報も直ぐに確認できる場所に設置している。また服用し易いよう医師や薬剤師と相談の上、薬の形状(錠剤・散剤等)を変更するなど配慮している。		
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人の能力に応じたものを提案し、自己選択していただいている。ひとり一人役割意識を持っていただき、張り合いを持てるよう声のかけ方にも工夫し楽しめる環境作りに取り組んでいる。	テレビ視聴、日記をつける、新聞を読む、新聞の書き写し、歌を歌う、歌を聴く、書道、生け花、ぬり絵、切り絵、ちぎり絵、折り紙、裁縫、スタンプ画、張りぼてづくり、さげもんづくり、漢字ドリル、ラジオ体操、風船バレー、洗濯物干し、洗濯物たたみ、拭き掃除、料理の下ごしらえ、食器洗い、テーブル拭きなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、利用者が喜びや張り合いのある日々を過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の日常的なさりげない言葉に耳を傾け、希望に添えるよう努力している。また、お誕生日にはその方の希望を聞きながら馴染みある場所や旧友と再会など個別支援に努めている。	施設周辺の散歩や買い物、ドライブ(秋吉台、常盤公園、津和野、徳山動物園、梨狩りなど)、季節の花見(梅、紫陽花、藤、紅葉など)、他事業所の夏祭りに参加、家族との外出など戸外に出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額を自己管理されている方もおられるが、生活用品の購入やお小遣いについては家族よりお預かりし施設で管理している。一緒に出かけ商品を選んだり支払いをして貰ったりしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	季節のお便りを発送を行っている。本人の希望があれば電話の取り次ぎや手紙をポストに入れるなどの支援を行っている。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が感じられるよう玄関やリビングには花や利用者が作成した作品を飾り、壁には思い出の写真を掲示している。	共用空間は、天窓や窓から自然の光が差し込んで明るく、食堂と居間が続きになっていて広々としている。周囲の壁面には、利用者や職員とでつくった季節に合わせた作品や行事や外出での利用者の写真がたくさん飾っている。テレビやソファ、テーブル、椅子が配置してある他、通路付近に、多種類のソファや椅子が置いてあり、利用者が思い思いに過ごせるように工夫している。食堂のすぐ傍に台所があり、調理の音や匂いがしているなど季節感や生活感が感じられるように工夫している。温度や湿度、換気、音に配慮し、利用者が居心地よく過ごせるように支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルなど家具の配置を工夫し、落ち着ける場所作りを行っている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や生活用品は馴染みある物を持ってきて貰っている。家族の写真や手作りの手芸作品など飾り、それぞれが落ち着ける空間作りがされている。	ダンス、衣装ケース、椅子、衣装掛け、机など使い慣れたものや好きなものを持ち込んで、ぬいぐるみや本人の写真、家族の写真、自分の作品などを飾って居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所については、理解し易いよう表示の工夫をしている。居室についても本人が解りやすいものを飾るなど認識し易い物にするなどしている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム徳地あいおい苑

作成日: 平成 28 年 1 月 10 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全職員を対象にした応急手当や初期対応の定期的な訓練の実施	全職員が事故発生に備え初期対応訓練が継続できる	ヒヤリハット・事故報告書を検証し対応策を協議の上事故防止に取り組んでいく。継続して看護師の指導のもと、全職員がAED訓練および緊急時に初期対応できるようにする。	1年
2	4	職員一人ひとりが項目を理解し、全職員が個別評価に取り組むまでにはいたっていない	全職員で個別評価へ取り組むことができる	管理者が評価への意義を説明し、全職員で自己評価に取り組む。また、評価を振り返り見直しのツールの一つとして活用し改善を図っていく。	6ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。